

維持透析患者におけるERCP後偶発症の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塩賀, 太郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031917

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2922 号	氏 名	塩 賀 太 郎
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山 本 雅 一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP) を用いた診断、治療は消化器内視鏡検査の中で偶発症のリスクの高い手技である。今回は、維持透析患者における ERCP の偶発症発症とリスク因子について検討した。2006 年 1 月から 2014 年 5 月までに当院で ERCP を施行した透析患者 83 件、非透析患者 619 件を比較検討した。透析患者の偶発症発症率は発症 19.3%で、非透析患者と比較して有意に高く、急性膵炎 8 件、消化管出血 4 件、誤嚥性肺炎 2 件を発症した。特に、内視鏡的乳頭切開術 (EST) による消化管出血は、透析患者で有意に高率であった。透析患者における偶発症のリスク因子として、心疾患合併が有意であった。透析期間と急性膵炎と消化管出血の発症に有意な関係を認めなかった。透析患者では ERCP 関連の偶発症発症リスクは高く、特に治療的 ERCP で消化管出血が高率であることを示した価値のある論文である。</p>			
本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]			